

9月田原市議会傍聴記

Ⓣ

地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

■リスクマネージメント

牧野京史氏は、自治体が組織的にさまざまなリスクと向き合い、リスク発生の際の被害を最小限に抑えられる仕組みを構築する必要性を論じた。

牧野氏はそれらを「社会リスク」「政策リスク」「組織リスク」として、それぞれ業務継続計画、公共工事の入札不調、監査機能の面から議論を展開していった。

議論は一般的で傍聴席からは分か

もつと勉強し、議員力を高めよ！

った。

■ふるさと納税

杉浦文平氏は制度開始から今年で6年目を迎える「ふるさと納税」について「もっとお得感を出した積極的な取り組みで、田原市のPRと活性化に結び付けるべき」と迫った。

杉浦氏が言うように、納税者は「お

りにくかった。市行政の具体的事象で、どこにリスクが内在しているのか、その対処について論じていただきたか

これに対して総務部長は「本来の寄付金の趣旨に沿って、華美にならないように取り組んでいる」と答えて、議論は堂

女巡り。市では現在、2万円以上の寄付者に、2000円相当の季節の野菜便を届けている。

杉浦氏が言うように、納税者は「お

得感・メリット」でふるさと納税しているのだろうか。ふるさとを応援したい、あるいは災害や

まちづくりの懸念に取り組んでいる自治体を応援したいというのが本来の主旨ではないのか。「モノで釣って寄付を募る」やり方はいかがなものか。

また交流している長野県阿南町のそれを比較対象に

したが、財政力指数0.17の阿南町の税

外収入に対する取り組みと0.94の田原市とは違いがある

振興策の課題と今後の展開について取り上げたのは小川貴夫氏。

東京オリンピックが決まり機運が高まる中で、スポーツ好きな田原市民のエネルギーを健康づくりと活性化に結び付けたいとして、元気なまちづくりを展開し

また交流している長野県阿南町のそれを比較対象に

したが、財政力指数0.17の阿南町の税

外収入に対する取り組みと0.94の田原市とは違いがある

振興策の課題と今後の展開について取り上げたのは小川貴夫氏。

真木正五氏は「都市計画マスタープラン」見直しの動きに機能連携広域経営型の考え方は重要であるとし、そのための幹線道路網整備の方向性を質問した。

人口が減少していく中で都市計画は

たいとした教育部長は、スポーツ団体の加入者の減少や指導者不足、施設の老朽化などを課題としてあげた。

小川氏の「渥美半島をスポーツ半島に」という熱い思いが充満した一時間だった。

また東三河縦貫道

については、主要地方道や各バイパスで結ぶとし、大きく後退していることを印象づけた。

「人・物・情報」がまちづくりのキーワードであるが、田原市

では地理的要件から格差が生じていると問題提起したのは、大竹正章氏。

市街地と集落部に分けて効率的なまちづくり手法をとっている田原市にとって、それらをつなぐ公共交通インフラ整備や情報通信基盤の整

備は必須条件である。国も推進するコンパクトシティと地域の均衡ある発展をどう展開するのか。いや、集落部切り捨てにならないのか「大竹氏はこう言



二日間の田原市議会の議論で目につくのは、ストーリーのない表面的な質問の羅列と決まりきった答弁である。議員の主張がいまいちなまま降壇するケースも多かった。質問者も答弁者も原稿を読み合う一問一答など、何の意味があるのだろうか。もっと勉強を！

二日間の田原市議会の議論で目につくのは、ストーリーのない表面的な質問の羅列と決まりきった答弁である。議員の主張がいまいちなまま降壇するケースも多かった。質問者も答弁者も原稿を読み合う一問一答など、何の意味があるのだろうか。もっと勉強を！